

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム V2.7.0 (2016) | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新トラック会館新築工事	階数	地上6F
建設地	名古屋市瑞穂区新開町1301番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域および準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,720 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2024年1月25日
敷地面積	2,225 m ²	作成者	
建築面積	722 m ²	確認日	2023年5月9日
延床面積	4,024 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>・ 免震構造の建物とし、停電時の重要機器の72時間の電源供給や通信手段の多様化を図りBCP対策を行う。</p> <p>・ 効率の良い設備機器の導入や、昼光利用制御による電力量削減を実施し、環境負荷の低減に配慮した建物である。</p>		
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>・ 開口部の遮音性能を向上させ、音環境に配慮する。</p> <p>・ グラデーショナルブラインドや昼光利用制御を採用して電力消費量を削減し、かつ適切な照度による照明を計画する。</p> <p>・ 換気量の増量やCO₂温度センサー搭載の全熱交換器を採用し、空気環境を配慮する。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>・ メンテナンスに配慮した設計を行い機能性を確保する。</p> <p>・ 免震構造の建物とし、重要度の高い機器に72時間のBCP対応や通信手段の多様化により耐用性と信頼性を確保する。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>・ 建物高さや外壁、開口部、欄等の形状や色彩は、周辺のまちなみや風景と調和させながら適切な緑地を周辺に対しての配慮を行う。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>・ エネルギー消費量の特性について傾向把握・分析を行い、その妥当性を確認しながらエネルギー使用に配慮する。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>・ 節水型機器の採用により、環境に配慮する。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>・ ライフサイクルCO₂排出率を52%にし環境に配慮する。</p> <p>・ 一般車両の駐車スペースの確保や荷捌きスペースの確保を行い、交通渋滞緩和に配慮する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)新トラック会館新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.5
LR1	エネルギー	4.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.5



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。